

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1276200076		
法人名	株式会社いすみ		
事業所名	グループホームはすぬま		
所在地	千葉県山武郡蓮沼口2783-7 (電話) 0475-86-2181		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年10月22日	評価確定日	11月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九十九里蓮沼海浜公園のすぐ側で、林や畑に囲まれた静かな地域にある。民宿を改造した2階建て2ユニットのホームで、2階とは階段で繋がっている。多少の段差や出入り口の狭さは職員の介護技術と工夫でカバーし、入居者には一歩でも二歩でも歩けるよう生活リハビリを実践している。管理者は介護マニュアルを作成し、これを基本に職員と共に質の向上に努めているばかりでなく、行政と共にグループホームと街全体が支えあう豊かな環境作りに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の啓発については、山武市役所などに広報誌を配布して、ホームの存在と役割の理解を求めている。ホーム内の清掃に関してはチェックシートを作り、こまめに清潔の保持に努めている。浴室は高齢者向けに改装した。ホームの行事には家族にも参加を呼びかけている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員と話し合いを行い、現場の意見を重視し、外部に情報を公開する良い機会と捉え、積極的に自己評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回程度、市の介護保険課や家族の参加で開催している。家族の要望なども議題に取り入れ、話し合いを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談、苦情の窓口を重要事項説明書に明記している。家族の訪問の折にはできるだけ時間を取り、話をするように心がけている。運営推進会議で出た要望については、リーダー会議で話し合い、必ず次回の会議で回答できるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	蓮沼海浜公園のサマーフェスティバルでの屋台飲食、スポーツプラザの文化祭にはぬり絵を出品、そしてはすぬま幼稚園児との交流で元気をもらっている。また、地域のドブさらい清掃にも参加して、地域の人々と交流することに努めている。

## 【情報提供票より】(19年10月5日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤4人、非常勤9人、常勤換算13人	

## (2)建物概要

建物構造	コンクリートブロック造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	食39,000 + 水光熱15,000 + 実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
	朝食	300 円	昼食
夕食		500 円	おやつ
または1日当たり 1,300円			100 円

## (4)利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低 69 歳		最高 96 歳	

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	国保成東病院 秋葉クリニック 医療法人社団郁栄会訪問歯科
---------	------------------------------

## 2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オープン時全職員で「笑顔で目線を合わせた生活作り」を理念としてまとめ、玄関や各フロアに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間の会話、毎月行われるフロアーミーティングやカンファレンスなどで、常に運営理念を根底に置いた話し合いができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「子供110番の家」となっている他、海浜公園での催しや幼稚園との交流、文化祭やドブ掃除などにボランティアと参加し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年指摘された、1階の清掃問題については、毎日入居者と共に掃き掃除のみならず拭き掃除も行ったり、物品の整理整頓に心がけ、清潔な環境が保たれるよう心がけている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族の参加を促すような内容を考えている。また、家族から出た意見はリーダー会議にかけ、具体的な回答ができるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター運営協議会、地域密着型サービス運営協議会、山武市グループホーム連絡会などに参加し、市町村担当者と事業所のみならず、山武市の支え合う街作りを考えていく機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には家族との会話に重点を置き、月末には広報誌や入居者の1ヶ月の生活報告書、金銭出納などを報告している。新人職員の紹介は広報誌で行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には苦情、相談の窓口を明記している。日々の面会や運営推進会議などの場面で、家族からの意見、不満、苦情などを引き出し、運営に反映できるよう常に意識している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の引継ぎは丁寧に時間をかけてケアプランや資料での申し送り、ベテラン職員と新人職員の共同ケアなどで、家族や入居者へのダメージを最小限に食い止める努力をしている。ユニット毎職員は固定し、顔馴染みの人が常に側にいる環境を整えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は介護マニュアルを基本に、働きながらトレーニングを進め一緒に考える機会を持ち、職員一人ひとりと向き合って技量の向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を刺激と捕え、千葉市や山武市のグループホーム連絡会に参加し、様々な取り組みを実際に見ることにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用する ために、サービスをいきなり開始するのではなく、 職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染める よう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず家族や本人に見学してもらう。また、職員が出向き話しを聞いている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から 学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に生活を送ることにより、食事作りや清掃の 仕方、諺や言葉などを教えてもらったりする関係を築い ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話など入居者の言葉をケース記録に記入し、 思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画 を作成している	入居者の持っている能力を引き出すことを介護の柱と し、月1回のフロアーミーティングで、ホーム独自の個別 プラン表(行動障害編)(自立支援編)をもとに全職員で 話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、 本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即 した新たな計画を作成している	毎月1回のカンファレンスで介護計画の見直しを行い、 変更がないかどうかの確認を行っている。また、3ヶ月に 一度は介護計画書を家族に送付し、署名押印をもらっ ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前、ショートスティの依頼を受け、準備をしたがキャンセルになり実現はしなかった。申し出があった時は、入居状況にもよるが、ショートスティの受け入れ体制は出来ている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居者個々のかかりつけ医への受診を行っており、出来る限り担当職員が通院に付き添う。しかし遠方からの入居でかかりつけ医受診が困難な場合は、家族の了解を得て、ホーム提携の医療機関に変更をお願いすることもある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところホームでの看取りはないが、今後医療行為を必要としない入居者に関しては、家族、職員との話し合いを密にし、終末期ケアを念頭に置いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心に関わることは、さりげない支援を心がけている。また、個人情報などの記録については、鍵のかかる書庫で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールを立てず、出来る限り入居者のペース、意思を尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者に質問方式で希望を聞き、それをもとに毎日午後一緒に買い物に行く。当日は職員と共に食事の準備をされたり、食後は洗い物が得意な方が食器洗いをされていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を優先し、入りたい時はいつでも入浴が可能である。入浴を拒否される方でも、最低週2回の入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、買い物、食事作り、食器洗い、将棋等、入居者が意欲的に取り組めることを日常生活の会話や様子から察知し、支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物、お天気の良い日の散歩、バス旅行、ぶどう狩り、年1回の一泊旅行など、外出の機会を多く作っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建てのホームであるが、1階ユニット用の玄関、2階ユニット用の玄関があり、1階の玄関は日中施錠はしていない。2階の玄関に関しては、職員が手薄な時に一時的に施錠することもある。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害を想定した訓練を行うなど、年2回避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算は行っていないが、出来るだけ多くの食材を使った調理法で入居者の栄養バランスを確保している。また、水分摂取量は一人ひとりにあつた量を把握し、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を改装し造られたホームと言うこともあり、ハード面では、不便を感じる部分も見受けられるが、職員がそれをカバーしている。また、海岸に近いためか、砂埃による汚れや、蝇が少し気になった。	<input checked="" type="radio"/>	共用空間の整理整頓を心がけ、居心地の良い場で過ごせるよう、職員が積極的に清掃に取り組むことが期待される。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具が持ち込まれてあり、入居者が安心して過ごせる部屋になっている。ただし、清掃の行き届いた部屋とそうでない部屋があるため、配慮されると更によいと思われる。		